

令和7年3月10日（月）五所川原市民学習情報センター

社会福祉法人による地域共生社会西北モデル強化事業 報告会

社会福祉法人による「地域共生社会」西北モデル強化事業

中泊町地域貢献活動連絡協議会 モデル実証活動報告

【中泊町地域貢献活動連絡協議会（事務局）】

社会福祉法人中泊町社会福祉協議会

法人運営課 課長補佐 赤石一樹

社会福祉法人による地域共生社会西北モデル強化事業

(青森県委託事業 令和4年度～令和6年度) 受託者：中泊町社会福祉協議会

【目的】 (実施要綱抜粋)

2025年超高齢化時代の到来を間近に控え、県民の誰もが、地域で生まれ、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができる「地域共生社会」の実現に向けた西北地域における各種取組を一層推進していく必要がある。

このため、各種生活支援サービス等の提供に係る多様な担い手確保対策の一環として、平成28年改正社会福祉法において「地域における公益的な取組」の実施に関する責務について規定された社会福祉法人の地域連携体制を構築するとともに、社会福祉法人による地域貢献活動を支援し、各社会福祉法人の主体的取組の促進を図ることを目的とする。

地域の強みや特徴を活かした「地域共生社会」西北モデルを構築

社会福祉法人・社会福祉協議会・地域の「三者協働」で地域貢献活動を推進

目指すところは、人口が減っても、高齢化が進んでも、行政主導にならない安心して楽しく暮らせる地域。

・誤解を恐れずに言えば、「自主的な地域づくり」が目的。

中泊町地域貢献活動連絡協議会の組織体制(令和4年7月設立)

・協議会会員(13団体)〔協議会役職〕

(福)中泊町社会福祉協議会〔会長〕
(福)内潟療護園〔副会長〕
(福)奥津軽会
(福)向明会
(福)みちのく会
(一社)西北五医師会
(公社)青森県看護協会
中泊町民生児童委員協議会〔副会長〕
中泊町行政連絡員協議会
中泊町保健協力員連絡協議会
中泊町福祉課
中泊町町民課
五所川原保健所

・協議会ワーキンググループ(9団体)

(福)中泊町社会福祉協議会
(福)内潟療護園
(福)奥津軽会
(福)向明会
(福)みちのく会
中泊町民生児童委員協議会(事務局)
中泊町福祉課
中泊町町民課
中泊町地域包括支援センター((福)内潟療護園)

・オブザーバー

西北地域県民局(西北地方福祉事務所)

・協議会事務局

(福)中泊町社会福祉協議会

※予算の執行管理は、中泊町社会福祉協議会が行う。

事業名		令和4年度	令和5年度	令和6年度	摘要
1. ネットワーク構築事業					
	協議会運営	通年(7月から運営)	通年	通年	
	ワーキンググループ	5回(7月に設置)	5回	5回	
	総会	3回(7月に協議会設立)	3回	3回	
2. ニーズ調査事業(地域貢献活動モデル実証アンケート)					
	住民アンケート調査	500世帯	—	—	5. モデル実証実施の参考
	住民座談会	5地区	5地区	—	
	関係団体等聞き取り調査	5団体	5団体	5団体	
3. 協議会会員 研修事業(会員研修会)		3回(4. 事業主支援セミナー兼ねる)	3回(4. 事業主支援セミナー兼ねる)	3回(4. 事業主支援セミナー2回兼ねる)	
4. 人材確保・育成事業					
	事業主支援セミナー	3回(3. 会員研修会兼ねる)	3回(3. 会員研修会兼ねる)	3回(3. 会員研修会2回兼ねる)	
	職場(職業)体験等	4回	4回	4回	
	町民及び求職者向けセミナー	3回	4回	3回	
	合同面接会(おシゴト説明会)	2回	2回	2回	
	マッチング支援(就労相談窓口、事業啓発)	通年	通年	通年	
	地域ナース養成(ベーシック講座受講)	3人	3人	5人	計11人養成
	見守りさん養成講座	—	1回	1回	青森県及びつがる市と共催
5. 地域貢献活動モデル実証事業					
	①地域ナース活動事業	4回(3月開始)	50回	62回	
	②共生の場づくり(居場所づくり)事業	—	12回(7月開始)	13回	令和5年総会で事業を設定
	③災害時の連携・支援体制の構築事業	—	3回(7月開始)	1回	令和5年総会で事業を設定
6. 地域貢献活動モデル実証の検討・開発		5年度実証に向け総会等で検討	—	—	新たな取り組みを検討
7. 地域貢献活動モデル普及促進事業					
	活動報告会	—	—	3回	
	地域ナース活動視察受け入れ	—	—	1回	

地域ニーズ調査事業 ※モデル実証を三者協働で実施するためのヒントとなる。

・住民アンケート調査（ニーズ調査500世帯） 令和4年度実施

地域における課題等を把握し、地域貢献活動（地域が必要としているサービスの創造や支援）を行うことで「町民の誰もが安心して暮らせる持続可能な地域の実現」に向け、より効果的な活動の検討のためアンケートを実施。

・住民座談会（5地区） 令和4年度・令和5年度実施

（地域課題の洗い出し、地域資源の活用、自分の得意なことから、やれることからやってみよう。）

地域貢献活動モデル実証（地域ナース活動等）の検証及び、地域の特徴や課題、住民自身が貢献できる活動等を把握するため、町内5地区で開催。座談会での意見等を取りまとめ協議会及び行政へ情報提供を行う。

・関係団体等聞き取り（5団体） 令和4年度・令和5年度・令和6年度実施

地域の特徴・課題、希望する活動、参加・協力の意向等について話し合いを重ねることで、団体の意向把握のみならず団体自身が地域ニーズや支え合いの活動の必要性に気づき、地域貢献活動への参加についての意識醸成を図る。

・地域貢献活動モデル実証アンケート 令和5年度・令和6年度実施

各種事業において参加者に対し、地域貢献活動モデル実証（地域ナース活動等）の認知度、必要性等についてのアンケートを実施。

〔住民座談会・関係団体等聞き取りを通して感じたこと（課題）〕

- ・地域の悪いところ、弱いところ、不便なところ、については活発な意見はでるが。
- ・地域住民や当事者からは行政から「やってもらう側」という一方通行な認識がかなり強いと感じる。
- ・行政に対しての質問や意見を言う場になってしまう傾向にある。座談会の実施にあたり工夫が必要である。
- ・地域づくりをしていくうえでの課題は、そこで生活している住民や当事者の中にこそあると思います。「あれもやりたい・これもやりたい、あれも必要・これも必要」となりがち。一人ではなく「みんな」でやれることからやってみるという意識で取り組むことが大事だと感じた。（ポジティブに）

【 住民座談会 （5 地区） 】



（小泊地域（下前地区））

（小泊地域（小泊地区））



（中里地域（中里地区））



（中里地域（内潟地区））

（中里地域（武田地区））



・ 地域貢献活動モデルの実証

①地域ナース活動事業（おおむね週 1 回（2 時間程度）活動）

※必須事業

【目的】

研修を修了した地域ナース（コミュニティナース）を設置し、専門性を活かしながら、制度にとらわれることのない、多様なケアを実施し、地域のなかで住民と接することにより、普段から健康意識を高めるアプローチや、病気の早期発見、保健・医療・福祉・行政機関への橋渡し等を行う。

年間を通して週1回程度で地域に出向き活動を行う。集いの場や各種行事、スーパー等の店舗での健康チェック・健康相談を行い町民の健康意識の向上を図る。

※事務局については、
・ 地域ナース活動者と活動場所等とのマッチングを行う。

- ①ヒトとコトをつなぎ、まちを元気にする
②地域の人を力を引き出し、まちの可能性をひろげる
③地域に必要な機能をつくる ※一緒につくる
のコンセプトで他のモデル実証事業の企画、調整、実施も行う。

【モデル実証のアンケート結果】

・ 問「地域ナース」の活動は今後とも必要だと思いますか。

年 度 \ 項 目	必 要	不 要	どちらとも 言えない	無回答	ご意見等
令和5年度	66件	1件	25件	17件	なし
令和6年度	80件	1件	25件	24件	今後も続けて欲しい。

・地域ナース活動事業 活動実績

年 度 項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備 考
ベーシック講座等受講者 【主催:株CNC】	・看護師(准) 1人 ・事務局 2人 (累計 3人)	・看護師(准) 3人 (累計 6人)	・医師 1人 ・看護師(准) 3人 ・介護支援専門員 1人 (累計 11人)	・医師 1人 ・看護師(准) 7人 ・介護支援専門員 1人 ・事務局 2人
地域ナース活動者 (活動実人数)	1人	4人 つがる市地域ナース 2人	4人	看護師(准)が活動
活動回数 (2時間程度の活動)	4回	50回	62回 (2月28日以降予定含む)	
健康チェック・健康相談	45件 (中里地域29件・小泊地域16件)	875件 (中里地域567件・小泊地域308件)	871件 (中里地域420件・小泊地域451件) (2月28日現在)	
主な活動場所	・公共施設 ・住民サロン	・商店、直売所 ・移動販売 ・公共施設 ・住民サロン(集会所等) ・町イベント(保健師と活動)	・商店、直売所 ・移動販売 ・公共施設 ・住民サロン(集会所等) ・町イベント(保健師と活動) ・認知症カフェ	
備 考	3月から活動開始	つがる市の地域ナース2人 が、10月から12月まで活動		

【 地域ナース活動 】



(小泊老人憩いの家)



(健康フェスタ) ※町イベント



(中泊町特産物直売所「ピュア」)
※町の保健師さんと活動



(スーパーストア中里ベル店)
※町の保健師さんと活動



(中泊町総合福祉健康センター「湯らぱーく」)

・地域貢献活動モデル実証（ワーキンググループ・総会で協議し令和5年7月から取り組むこととなる。）

②「共生の場づくり（居場所づくり）事業」を設定

令和4年度【中泊町】地域ニーズ調査結果報告書（一部抜粋）

・住民アンケート件数 500件

※無作為抽出で郵送で実施、郵送による回収とした。

・回答件数 218件（回収率44%）

■問14 社会福祉法人には“地域貢献活動”（地域における公益的な取り組み）の実施が責務化されています。“地域貢献活動”について、これから地域に必要な活動や望む活動がある方は、全てお聞かせ下さい。（複数回答可）

全体的に回答は分散しているものの、「高齢者（障害者）世帯への除雪支援」を求める回答が最も多かった。

※割合（%）＝（回答数／n）×100 n=218

必要な活動・望む活動	回答数	割合
① 社会福祉法人による相談支援	50	22.9%
② 家計相談（計画・管理・実践）支援	9	4.1%
③ 子育て支援（サロン）	21	9.6%
④ 子供の居場所づくり・学習支援	51	23.4%
⑤ こども食堂	22	10.1%
⑥ フードバンク（生活に困っている方へ食糧等無償提供）	29	13.3%
⑦ 認知症カフェ	17	7.8%
⑧ 高齢者等の集いの場	50	22.9%
⑨ 認知症サポーターの養成	45	20.6%
⑩ ごみ出し支援	31	14.2%
⑪ 買い物支援	54	24.8%
⑫ 移動困難者に対する移送支援	68	31.2%
⑬ 高齢者（障害者）世帯への除雪支援	108	49.5%
⑭ 見守り（孤独死防止）支援	69	31.7%
⑮ 就労（お仕事支援・訓練）	38	17.4%
⑯ 障害者等の職場づくり（お仕事支援・訓練）	34	15.6%
⑰ 地域懇談会開催支援	14	6.4%
⑱ 介護予防・介護技術等講習会	24	11.0%
⑲ 健康意識向上に関する支援	23	10.6%
⑳ その他	6	2.8%
合計	763	-

■問17 地区のためにあなたが協力できること、できそうなことがありましたらお聞かせ下さい。（複数回答可）

「高齢者や障害者への見守り・声掛け」とした回答が最も多く、次いで、「地域行事の手伝い」、「子どもたちの見守り」の順であった。

地域のためにできること	回答数	割合
① 高齢者や障害者への見守り・声掛け	87	39.9%
② ごみ出し代行	25	11.5%
③ 除雪代行	21	9.6%
④ 買い物代行	27	12.4%
⑤ 車での送迎（買い物・通院等）	22	10.1%
⑥ 地域行事の手伝い	53	24.3%
⑦ 子どもたちの見守り	39	17.9%
⑧ 子どもたちへの食事支援	11	5.0%
⑨ 子どもたちへの学習支援	8	3.7%
⑩ その他	16	7.3%
合計	309	-

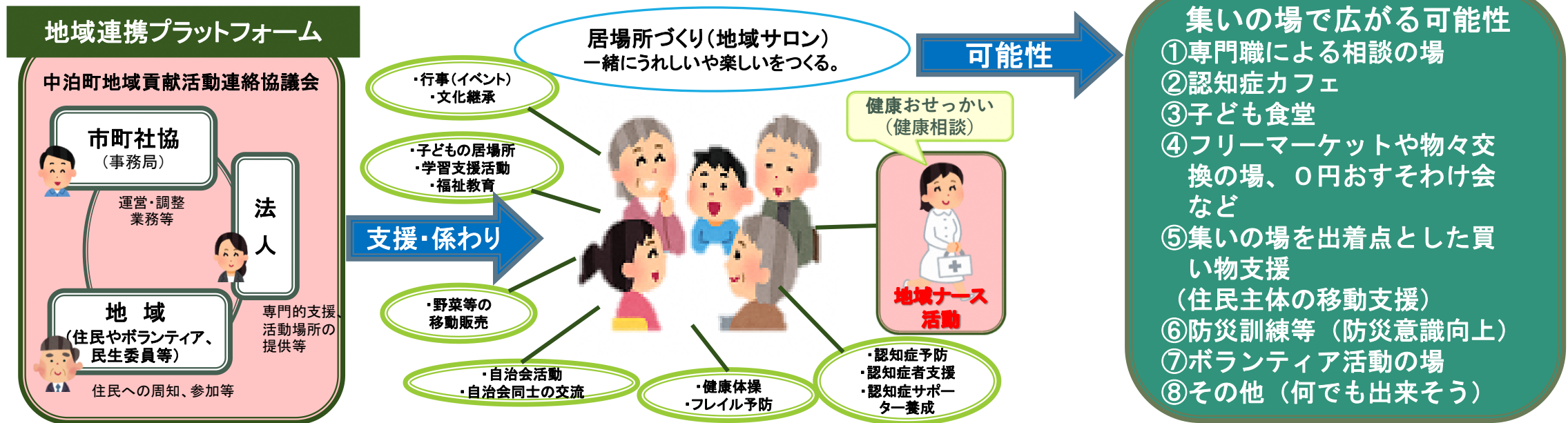
モデル実証②として設定した「ポイント」

1. 「地域住民＋地域の社会福祉法人＋社協」の「三者協働」でできる。
2. コミュニティナース活動の知見を活かせる。
(住民と一緒にうれしいや楽しいを創ることで広く健康にアプローチする活動を行う。)
3. 資源の活用と地域への係わり方で「コミュニティ維持」の支援ができる。
4. 多世代住民の直接参加、集まることで地域の可能性が広がる。

②共生の場づくり（居場所づくり）事業

【目的】

地域を巻き込み、全世代による「共生の場づくり（居場所づくり）」を図りながら、地域住民には役割をもってもらい、小・中・高等学校の児童・生徒等には、社会福祉や地域活動への関心や理解を深めるとともに、地域での体験活動を通して、思いやりの心やお互いに連携し助け合う力を養い、併せて家庭や地域への啓発を図ることを目的に各種取り組みを実施。



集いの場で広がる可能性

- ①専門職による相談の場
- ②認知症カフェ
- ③子ども食堂
- ④フリーマーケットや物々交換の場、0円おすそわけ会など
- ⑤集いの場を出着点とした買い物支援
(住民主体の移動支援)
- ⑥防災訓練等(防災意識向上)
- ⑦ボランティア活動の場
- ⑧その他(何でも出来そう)

■問 14 社会福祉法人には“地域貢献活動”(地域における公益的な取り組み)の実施が責務化されています。“地域貢献活動”について、これから地域に必要な活動や望む活動がある方は、全てお聞かせ下さい。(複数回答可)

全体的に回答は分散しているものの、「高齢者(障害者)世帯への除雪支援」を求める回答が最も多かった。

※割合(%) = (回答数 / n) × 100 n=218

必要な活動・望む活動	回答数	割合
① 社会福祉法人による相談支援	50	22.9%
② 家計相談(計画・管理・実践)支援	9	4.1%
③ 子育て支援(サロン)	21	9.6%
④ 子供の居場所づくり・学習支援	51	23.4%
⑤ こども食堂	22	10.1%
⑥ フードバンク(生活に困っている方へ食糧等無償提供)	29	13.3%
⑦ 認知症カフェ	17	7.8%
⑧ 高齢者等の集いの場	50	22.9%
⑨ 認知症サポーターの養成	45	20.6%
⑩ ごみ出し支援	31	14.2%
⑪ 買い物支援	54	24.8%
⑫ 移動困難者に対する移送支援	68	31.2%
⑬ 高齢者(障害者)世帯への除雪支援	108	49.5%
⑭ 見守り(孤独死防止)支援	69	31.7%
⑮ 就労(お仕事支援・訓練)	38	17.4%
⑯ 障害者等の職場づくり(お仕事支援・訓練)	34	15.6%
⑰ 地域懇談会開催支援	14	6.4%
⑱ 介護予防・介護技術等講習会	24	11.0%
⑲ 健康意識向上に関する支援	23	10.6%
⑳ その他	6	2.8%
合計	763	-

令和5年度

②共生の場づくり（居場所づくり）事業（12回）

（1）小学児童学習支援活動（8回）

- ①名 称：夏休み中の小学児童を応援「夏休み学習会」（4回）
場 所：町公共施設（中央公民館・高齢者生活福祉センター）
参 加：小学児童延べ52人・ボランティア先生延べ13人・協議会応援職員延べ8人
- ②名 称：学びをささえる小学児童の「冬休み学習会」（4回）
場 所：町公共施設（老人福祉センター・高齢者生活福祉センター）
参 加：小学児童延べ43人・ボランティア先生延べ18人・協議会応援職員延べ10人

（2）多世代交流会（住民交流サロン活動）の実施及び実施支援（3回）

実施場所は、各地区の集会所等

- ①第1回 参加：43人（小学児童11人・地区住民26人・協議会等関係者6人）
- ②第2回 参加：66人（保育園児26人・地区住民28人・協議会等関係者12人） ※地区からの実施支援要請あり
- ③第3回 参加：30人（幼児・小学児童5人・地区住民23人・協議会等関係者2人） ※地区からの実施支援要請あり

（3）サンタクロースご家庭訪問（ボランティアサンタ活動）（1回）

- ①クリスマスの日
サンタ訪問家庭3件（幼児・児童3人）・サンタボランティア2人（高校生）・協議会関係者2人

令和5年度 (1) 小学児童学習支援活動

【夏休み中の小学児童を応援「夏休み学習会」】

【学びをささえる小学児童の「冬休み学習会」】

(先生は地域の教員OB・大学生・高校生・各法人の職員)



(棒パンづくりにチャレンジ)

(高校生(ボランティア先生)は中泊町のほか五所川原市・つがる市・鶴田町・板柳町から参加)

令和5年度 (2) 多世代交流会 (住民交流サロン活動)

(3) サンタクロースご家庭訪問

(ボランティアサンタ活動)

※人生に何十回とあるクリスマスで地域の高校生が参加（協力）、地域のあたたかさを感じました。



(保育園児からの肩たたきのプレゼント)



(花札・ドップを教えてもらいました。)



令和6年度 ②共生の場づくり（居場所づくり）事業（13回）

（1）小学児童学習支援活動（8回）＋福祉教育

- ①名 称：夏休み中の小学児童を応援「夏休み学習会」（4回）＋認知症サポーター養成講座・高齢者疑似体験
場 所：町公共施設（高齢者生活福祉センター）、（福）内潟療護園
参 加：157人（小学児童延べ110人・ボランティア先生延べ14人・協議会応援職員延べ33人）
その他：介護施設の給食体験や認知症サポーター養成講座・高齢者疑似体験を行いました。
- ②名 称：学びをささえる小学生たちの「冬休み学習会」（4回）＋認知症サポーター養成講座（地域の方も参加）
場 所：（福）向明会、こどもり老人憩いの家（集会所）
参 加：147人（小学児童延べ68人・ボランティア先生延べ20人・協議会応援職員延べ31人）
（地区住民28人が認知症サポーター養成講座を児童と一緒に受講しました。）
その他：介護施設の給食体験や地域の方と昼食を一緒に作ったり、地域の方も認知症サポーター養成講座を受講しました。

（2）多世代交流会（住民交流サロン活動）の実施及び実施支援（4回） ※地区からの実施支援要請あり

実施場所は、各地区の集会所等

- ①第1回 参加：127人（子育て世代48人（18世帯）・地区住民66人・地区スタッフ、協議会等関係者13人）
②第2回 参加：48人（幼児・小学児童18人・地区住民27人・協議会等関係者3人）
③第3回 参加：50人（保育園児15人・地区住民28人・協議会等関係者7人）
④第4回 参加：37人（幼児・小学児童6人・地区住民29人・協議会等関係者2人）

（3）サンタクロースご家庭訪問（ボランティアサンタ活動）（1回）

①クリスマスの日

サンタ訪問家庭 6世帯（幼児・児童9人）・サンタボランティア5人（高校生）・協議会関係者3人

令和6年度(1) 小学児童学習支援活動 + 福祉教育

【小泊地域】 (こどもり老人憩いの家)

【中里地域】 ((福) 内湯療護園)



(かき氷づくり)



(児童と高校生ボランティア)

【中里地域】 ((福) 向明会)



(認知症の勉強)

- ・住民の方も参加
- ・先生は地域包括支援センターの職員、高校生には寸劇に協力いただきました。

【小泊地域】 (高齢者生活福祉センター)



(認知症の勉強) ・先生は地域包括支援センターの職員



(住民の方から、お茶の作法を教わりました。)



(住民の方と、カレーライスを作りました。)



(高校生 (ボランティア先生) は中泊町のほか五所川原市・つがる市・鯉ヶ沢町・藤崎町から参加)

令和6年度（2）多世代交流会（住民交流サロン活動）の実施及び実施支援

【11/3ちょっと遅れたハロウィンパーティー】

・子ども達はハロウィン衣装、メイクで参加



・地区住民の方から「焼いも」のプレゼント



【12/15文化（伝統）保存と継承「繭玉飾り」づくり】

・初めての「餅つき」



・みんなで「繭玉飾り」作業



・「繭玉飾り」完成



・みんなで「じゃんけん大会」



・豊漁豊作、健康、安全などの願いを込めて、小学校に飾りました！



令和6年度（2）多世代交流会（住民交流サロン活動）の実施及び実施支援

【12/23地区住民サロン・クリスマス交流会】

- ・ 保育園児から「お遊戯のプレゼント（ハンドベルで演奏）」



- ・ 地区の方（サンタ）からクリスマスプレゼント



- ・ 参加者みんなで集合写真



- ・ 地区の方と保育園児の交流



【2/16地区住民懇談会 & 交流会】

- ・ 地区住民懇談会（話し合い）

（地区の強み、弱み（課題等）を把握し、地区の維持と住みやすい地区へのヒントを探りました。）



- ・ 「Mr. カズック」イリュージョン・Live
（地区住民によるマジックショー）



- ・ 寒い中、地区の方が「焼いも」を焼けてくれました。



【地区住民の方の積極的な参加、役割を持っていたいただき地区の維持に繋げる。】

令和6年度 (3) サンタクロースご家庭訪問 (ボランティアサンタ活動)



・クリスマス当日、高校生5人がボランティアサンタクロースとして協力してくれました。

・2班に割かれ「中里地域・小泊地域」で活動しました。



・プレゼントはご家族が準備、こっそりお預かりし、サンタクロースがご家族に代わってお渡しします。

・人生に何十回とあるクリスマス、地域の温かさに触れることができました。(温かさをお届けしました。)



令和6年度 (3) サンタクロースご家庭訪問 (ボランティアサンタ活動)

12/25中里地域ボランティアサンタ活動 (動画)



12/25小泊地域ボランティアサンタ活動 (動画)



【モデル実証アンケート結果】

- ・問「共生の場づくり（居場所づくり）事業」（学習支援活動・多世代交流会・ボランティアサンタ活動）の活動は今後も必要だと思いますか。

年 度 \ 項 目	必 要	不 要	どちらとも言えない	無回答	ご意見等
令和5年度	56件	1件	23件	32件	一部の人の事業になっている。
令和6年度	82件	0件	25件	23件	・どれも必要な事業である。 ・子ども達の勉強に役立つ。 ・町内の方の顔が見れてよかった。

〔共生の場づくり（居場所づくり）事業を実施して感じたこと（課題）〕

- ・各社会福祉法人等が「ほんの少し」支援をすることで、地域住民や地域イベントとして、自主的に実施できる内容です。協議会が最初の企画や運営サポート等の要請に応じていくことでコミュニティ維持に繋がる。
※主役は地域（地域住民）という意識づけが必要。
- ・社会福祉法人の積極的な係わりや支援で「社会福祉法人の地域貢献活動」の推進にも繋がる。
- ・地域には活用できる既存の資源（施設・組織・団体・人物など）が沢山あり、組合せ次第で色々な活動に発展できる可能性があります。無いものを作りだすのはとても大変ですが、あるものを発展させていくのは知恵と工夫次第である。（既存の資源は必要だからあるはず、うまく活用し地域づくりを発展させる。）

+ 行動も

令和5年度 ③災害時の連携・支援体制の構築事業（3回）

【目的】

介護施設等での災害時の連携・支援体制の構築するには、施設自らでの防災知識の習得、災害への対応力向上、体制強化を行う必要があるため、研修会等を実施し、災害時の連携・支援体制の構築を目指す。

（1）介護施設等における「防災・減災」研修

内容：講演 ①防災・減災とは ②防災・減災に関すること

③防災用品の展示と説明（防災テント・段ボールベット・各種防災グッズ・エアーストレッチャー）

講師：NPO法人青森県防災士会 事務局長 三浦 一郎 氏（防災士）【青森市】

参加：21人（協議会会員16人（7法人（団体）・町内介護サービス事業所5人（3事業所））

※青森県「防災・減災に関する防災訪問事業」を活用し実施した。

（2）業務継続計画（BCP）策定支援研修会

内容：講演 ①BCPの基本的理解 ②BCPの策定演習（災害・感染症）

講師：東京海上日動火災保険(株) 青森支部弘前支社課長 由良 滋 氏【青森市】

参加：21人（協議会会員14人（6法人（団体）・町内介護サービス事業所7人（5事業所））

（3）防災対策研修「福祉避難所の理解」 ※Zoomを使用したオンライン研修

内容：講演 ①福祉避難所の制度等の解説（役割・開設の流れ）

②福祉避難所の現状と課題

講師：新潟青陵学園 新潟青陵大学 社会福祉学科准教授 小柳 達也 氏【新潟県新潟市】

参加：24人（協議会会員20人（6法人（団体）・町内介護サービス事業所4人（4事業所））

その他：つがる西北五地域の社協職員31人がオンラインで参加した。

令和5年度 ③災害時の連携・支援体制の構築事業（3回）

【介護施設等における「防災・減災」研修会】



（防災テントの説明）



（エアーストレッチャーの実演）



（防災グッズの説明）



【業務継続計画（BCP）策定支援研修会】



【防災対策研修「福祉避難所の理解」】



令和6年度 ③災害時の連携・支援体制の構築事業（1回）

【福祉避難所研修会・模擬訓練（机上訓練）】 （事業継続と福祉避難所開設趣味レーション訓練）

- ・災害発生後に福祉避難所を連携のうえ開設及び運営の経験を基にした机上訓練を実施し、当協議会がモデル実証事業として実施している「災害時の連携、支援体制」の構築を図る。
- ・訓練を通して、各法人（事業所）が整備したBCP（業務継続計画）のブラッシュアップを図る。ほか

講師：社会福祉法人リデルライトホーム（社会福祉連携推進法人ジョイント&リップル参画）
古賀 友規 氏・吉鶴 喜代美 氏（熊本市）

参加：60人（行政職員や町内外の社会福祉法人、介護事業所等から）

- ・講義（熊本地震や豪雨災害での福祉避難所の開設、運営事例）



・模擬訓練（カード「SgSE（セグセ）」を使った机上訓練）



- ・机上訓練では、災害等により自施設では福祉避難所を開設できなくても、インフラ・備蓄品の量を確認しながら、関係事業所同士で福祉避難所を立ち上げることができました。（地域にある事業所同士での連携、支援の大切さを改めて感じることができました。）

令和5年度【モデル実証アンケート結果】

・問「災害時の連携・支援体制の構築事業」の活動は今後も必要だと思いますか。

年 度 \ 項 目	必 要	不 要	どちらとも言えない	無回答	ご意見等
令和5年度	77件	0件	18件	16件	当町で実施することはとてもよい。
令和6年度	82件	0件	25件	23件	町内会と連携して実施して欲しい。

〔災害時の連携・支援体制の構築事業に取り組み感じたこと（課題）〕

- ・災害時の備えや対応として、まずは「自助」が基本、そのあとは地域での「共助」が大切であり、そこに「社会福祉法人と地域」で共助の仕組みがあったらと感じる。（体制の構築まで時間が必要）
- ・福祉施設が避難所の拠点（福祉避難所）として機能するには、関係者や地域住民との連携が必要と感じる。

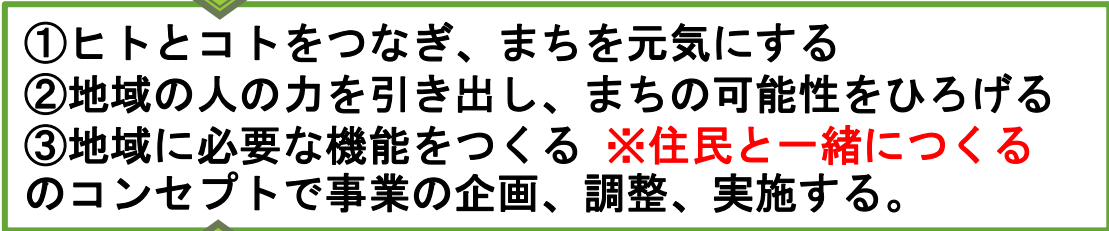
活動の気づき(課題)

- ・この事業(協議会)だけで地域の「あるべき姿・理想の姿」が達成されるわけではない。
住民自らが住民同士一緒になって、普段からの穏やかな支え合いが大事。
- ・既存の資源(施設、組織、団体、人物など)の整理、つなぎ合わせることで新たなサービスを開発、新たな仕組みづくりとなる。
地域に出て、地域の声を聴くことは大事。
- ・災害時や緊急時になって「今こそ互助・共助」だといってもすぐに動けない。
日頃からの備えが大事。
- ・この事業(協議会)は「**地域のあるべき姿・理想の姿**」を達成するための使い勝手の良い道具。道具を活用していただき、やれるところからやってみる。
という意識で一緒に取り組むことが大事。

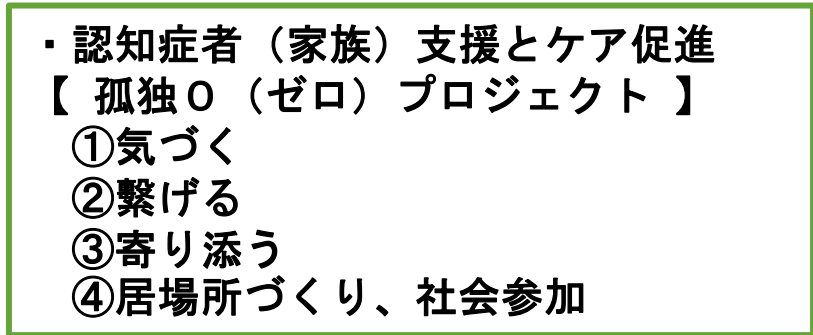
協議会事業(モデル実証事業)の今後

①地域ナース活動事業

・地域(行政連絡員、民生児童委員、町内会、兼任集落支援員)と連携することで、地区で暮らす高齢者の状況を把握できます。認知症予防、認知症者支援、支援の必要な高齢者等の自宅訪問と、集いの場への参加の促し、地区の各種イベントでの健康活動を行う。※地域ナース活動は看護師のみの活動に限らず、他職種活動を促進する。

- 
- 
- ①ヒトとコトをつなぎ、まちを元気にする
 - ②地域の人を引き出し、まちの可能性をひろげる
 - ③地域に必要な機能をつくる ※住民と一緒に作る
のコンセプトで事業の企画、調整、実施する。



- 
- ・認知症者(家族)支援とケア促進
【孤独0(ゼロ)プロジェクト】
 - ①気づく
 - ②繋げる
 - ③寄り添う
 - ④居場所づくり、社会参加



②共生の場づくり(居場所づくり)事業

- ・地域ナースの知見を活かし、資源の活用と、地域を巻き込み、一緒に展開していく。
(孤独防止・学習支援・福祉教育(認知症サポーター養成)、認知症者支援など)
- ・住民主体の移送支援サービスの実施(開発)にも今後、取り組んでいきたい。

③災害時の連携・支援体制の構築事業

- ・5年度、研修会「防災減災、業務継続計画(BCP)、福祉避難所」で知識の習得。
- ・6年度、机上訓練(福祉避難所開設運営シュミュレーション)で備えや施設同士での連携を学ぶ。
- ・7年度以降、会員の施設を活用し実地訓練(福祉避難所開設と運営、多職種連携避難訓練)を実施したい。

中泊町地域貢献活動連絡協議会

事務局：社会福祉法人中泊町社会福祉協議会

037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山170-1
(中泊町総合福祉健康センター「湯らぱーく」内)

☎ 0173(57)4841